

演劇集団反 くさびを打て

韓国現代演劇の現在をご覧ください

私たちは人間として生まれ、喜び、憤り、悲しみ、楽しんだり、あることに感動したり、失望したりする。ある人は、生きることがドラマチックだと思う反面、限りなく疲れてうんざりだと思う人もいる。いろいろな姿がそこにある。

本作『くさびを打て』は、死ではなく、生と生に対する態度を語ろうとする作品だ。「自殺」というモチーフを通じ、人間はなぜ生きなくてはいけないのか、人間は何のために生きるのかという、根本的な質問を観客に投げかける。

誰の人生でも、人生には喜びと苦痛が公平に半々ずつ起きるという。それにもかかわらず、つらいことの方が多いと感じるのは、人間の精神と肉体が、喜びよりも苦痛を敏感に感じ取るからである。

人生を喜びと思うか苦痛と思うか。それは生に対する主張的姿勢を持っているかいないかということだ。私たちは、このような生への意思が揺らがないように、絶え間なく私たちの人生に、くさびを打たなければならない。

そうすれば、その意思是揺らがないものになり、打たなければ絶え間なく揺らぐのである。『くさびを打て』では、どのように揺らぐ靈魂の姿を見せようと思う。なぜならそれが、もっと人間的だと思うからだ。

あらすじ

今年の初めに結成されたく韓国インターネット自殺クラブの会員は33名いたが、これまで26名が生きる意欲を取り戻し、クラブを去っていった。

行動予定日である12月の最後の夜、クラブに集まった会員は7名だった。彼らはこの出会いを喜び、お互いの体験と苦痛を分かち合い、人生最後のパーティーを楽しもうとしている。午前零時を待っている誰もが、そのパーティーの目的を口にはしない。自身の生と死の境に立っている彼らの感情は、時には不条理で時には異様で叙情的である反面、決定的だ。午前零時を知らせる鐘の音とともに、彼らは準備された毒劇物を次々に飲んだが…



作 カン ウンギョン／演出 パク ジャンヨル

タクシー運転手 コ クアンジェ
矯導官 ウォン ジョンチョル
ウンジのお父さん ムン チャンワン
職場の女性 ソン ギヨンソン
女子大生 クォン ギテ
白鳥 キム ジオン
科学の教師 キム ジウン

演出助手 イム セリュン
照明 キム チョルヒ
舞台 シム チェソン
衣裳 パク クニヨ
音楽 ムン ヘシン
進行 クォン ブノ

2006.11.10-11

演劇集団反プロフィール

1996年、朴章烈（パクジャンヨル）を中心に旗揚げし、以後年4、5本の作品を上演する。朴章烈のオリジナル作品はもとより、ブレヒト作品などを現代の韓国に置き換えた作品なども発表する。

2003年には現代日本戯曲朗読公演として鐘下辰男作『ルート64』リーディング公演、その後の大学路での一ヶ月におよぶ上演、2005年日韓国交正常化40周年記念公演『沈黙の海峡』（東京ギンガ堂とソウル市劇団共同制作）の共同演出を担当するなど、日本演劇との関わりは少なくない。

また今年から韓国各都市からやってくる10劇団が順に公演していく100万ウォン共同体演劇祭をソウルで開催するなど、韓国演劇をリードする劇団である。

日時
10（金）17:00
11（土）13:00 / 17:00
*開場は開演の20分前です。

ご予約
042-577-2366 (TEL+FAX) / 090-3808-8763
ban@uniquepoint.org

一般2500円 / 学生1500円 / 学習院女子大学生1000円
*ご予約されたチケットは、当日受付での引き換えとなります。

お問い合わせ
042-577-2366 (10:00~17:00) / 090-3808-8763
ban@uniquepoint.org

学習院女子大学やわらぎホール

- 東西線早稲田徒歩10分
- J R 高田馬場徒歩20分

*北門（案内あり）からのご入場となります。
*時間に余裕をもってご来場ください。



主 催 学習院女子大学舞台愛好会
共 催 演劇集団反／ユニークポイント
制 作 Big Wave／金灘日
制作協力 atelier SENTIO

後 援 駐日韓国大使館 韓国文化院／流山児事務所／
青年劇場／三百人劇場／タイニイアリスト／
劇団池の下／ストアハウス／
(社)韓国演劇協会／韓国演出家協会／
韓日演劇交流協議会